

「少人数の営業所なので、全員が一体となって対応しています。自分もその一員として役に立っていると実感しています」と話す田橋雄太さん。

会社は電気工事店などに、電設資材を販売する問屋です。資材の幅が広く種類も多いので「日々勉強」と苦笑い。「1年目は資材の注文を受けると暗号を聞いているようでちんぷんかんぷん。でもこれが分かってくるとやりがいにもつながります」と話し、「配達時にその材料が現場でどのように使われているのか、実際に見て

覚えるようにしています」と熱心です。仕事は、事務から配達、倉庫の管理まで幅広く携わり、経験を積む毎日。「早く、本格的に営業ができるようになりたい」と意欲的です。

趣味は体を動かすこと。野球、ソフトボールに加え、ソフトバレーボールの地元チームにも入り、地域での活動を大事にします。楽しみは、「晴れた日に、愛車のハーレーで風を浴びて走るのかな」とはにかみます。

「仕事を通じて広がる人とのつながりを大切にしたいです」と話します。

人のつながりを大切にしたい



勤務先 大電産業(株)小浜営業所
たばし ゆうた
田橋 雄太さん
(22歳・和久里)

きりり! 小浜人

役者魂 演劇で地域を盛り上げ

地域住民28人が所属する劇団・久須夜^{くすよ}で、中心俳優として活躍する橋本さん。久須夜の公演を観に行ったことをきっかけに、昭和49年に入団。「初舞台は、歌人・山川登美子の弟役でした。せりふも多く、必死で演じたのを覚えています」と振り返ります。

以来、40年以上に渡り、小浜の偉人を中心にさまざまな役に挑戦してきました。元来人見知りだったという性格も、舞台経験を積むうちに克服。演劇の魅力を「殻を破って、なれない自分になれること」と笑顔で話します。

一時期、団員数が3人まで落ち込んだ久須夜ですが、活動し続けたことで、新しい世代の団員やファンを獲得し、再び活況を迎えています。「演劇で地域を盛り上げるとともに、小浜の歴史や偉人についても伝えていきたいです」

次回公演は郷土の偉人・山口嘉七^{やまぐちかぢ}を主役にした『若狭創り人』の再演(P13参照)。橋本さんにとっても3年振りとなる嘉七役について、「地元の偉人を演じられることは幸せ。庶民的で親しみやすい嘉七を表現したいですね」と力強く語ってくれました。



劇団久須夜 団員
はしもと まさかず
橋本 正一さん
(61歳・神宮寺)

燃えろ! 青春! 部活道

しっかり点が取れるチームに

1年生10人、2年生7人の野球部をまとめる主将の福井魁幸くん。

「うちには女子部員が1人います。少年野球の後輩でエース投手なんです。2年の春から、自らも希望して投手も担う福井くんは、「互いに切磋琢磨^{せつさくたくま}しています。チームのみんなも仲が良く明るい」と話します。

小学1年生のとき、父から野球の楽しさを教えてもらったのが始まり。「少年野球最後の大会で、準々決勝で延長戦となり、サヨナラヒットを打って決勝進出、県大会出場を決めた試合

が忘れられない」と熱く語ります。

「昨秋の新人戦では、試合経験が少ないことから全員が緊張してガチガチになり、十分に力が発揮できませんでした」と振り返ります。チームに足りないのは、「ここ一番で打てない」とと分析。「しっかり点が取れるチームにしたい」と春の県大会出場を目標に、打撃力に自信をつけるための筋力アップに全員で取り組んでいます。

加えて、「ボール回しを工夫し、捕球力のアップと基本動作の確認も欠かしません」とチームの強化に努めます。



野球部 主将
ふくい かいこう
福井 魁幸くん
(小浜中学校2年生)

燃えろ! 青春! 部活道

チーム丸花園で勝利を目指す

12月に2年ぶり28回目となる全国大会に出場した若狭東高校ラグビー部。1回戦で惜しくも涙をのみ、3年生が引退。2年生14人、1年生11人の新チームがスタートをきりました。

キャプテンに選ばれたのは、杉山くん。中学生のとき全国大会をテレビで観たのをきっかけに、高校ではラグビー部を選択。フオワードとして憧れの花園の舞台を経験しました。

「自分より大きな相手を倒すのが好きですね。トライが決まったときに生まれるチームの一体感魅力です」

「全国大会では自分の力のなさを痛感しました。強豪相手に通用する体づくりに励むとともに、走れるチームを作りたいです」と雪辱を誓います。

日々の練習では「毎日課題が見つかる」と話す杉山くん。「試合での集中力はみんなすごい。練習でも集中して力を高められるように、チームをまとめたいです」と意欲をみせます。

ラグビー部の目標はただ一つ「花園(全国大会)で勝つこと」。まずは、県代表として出場を決めている3月の北信越大会で勝利を目指します。



ラグビー部 キャプテン
すぎやま ゆうと
杉山 友斗くん
(若狭東高校2年生)

おにゅう峠からの雲海

朝日が雲を焼き、彩雲のように色づいた。ファインダー越しの景色が明るみ始めたその一瞬、周りも自分も美しい景色を写真に収めようとシャッターに手をかける。朝、6時50分の出来事です。

上根来の先、山道を登りきった山頂に「おにゅう峠」があります。早朝の峠には、大きなカメラを持った人が集まります。集まった人の目的は一つ、「雲海」。限られた条件の中でしか撮影できない絶景は、今も昔も人の心をひきつけているようです。

気温がぐっと低くなり、風のない早朝には、雲海が出ているかもしれません。おにゅう峠で雲海撮影に挑戦してみたいはかがでしょうか。お供にコーヒーを持っていけば、撮影後の至福を味わえます。



【問い合わせ】
商工観光課 ☎ 内線 220

【アクセス】
上根来（滋賀県との県境）
JR 小浜駅から車で60分
舞鶴若狭自動車道小浜ICから車で60分
(文と写真:地域おこし協力隊ハラ)

健康長寿のススメ

知って得するがん検診④ 「子宮頸がん」

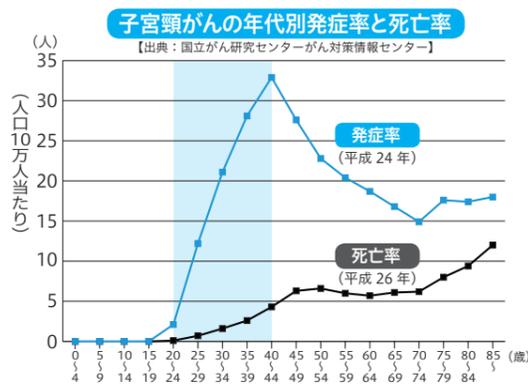
子宮頸がんの危険因子
子宮頸がんの発生には、ヒトパピローマウイルス(HPV)の感染が関連しているとされ、主な感染経路は性交渉と考えられています。HPVは、約80%の女性が生涯に一度は感染するウイルスです。感染しても自然に治ることが多いものの、一部の人が前がん病変となり、さらにその一部が、がんに行進します。

がんになる前に発見可能
子宮頸がん検診は精度が高く、がんになる前の病変や、ごく初期の状態を容易に見つけることができます。早期に見つければ、最小限の手術で完治することができ、妊娠や出産も可能です。しかし、検診以外ではその発見は難しく、症状が現れてからでは進行している場合があります。近年、39歳以下の発病が増えています。20歳から45歳にかけて、発症率が大きく上昇します。市の子宮頸がん検診の受診者は年間850人程度で、精密検査の対象になる人は1割弱。2年に1回継続して検診を受けている人は、ほぼすべて、がんになる前の病変で発見されています。

子宮頸がん検診は20歳から2年に1回!

- ① 20歳から2年に1回、欠かさず受けること
- ② 検査方法は「子宮頸部細胞診」で、子宮の入り口付近をブラシ等の採取器具ですって細胞を採取し診断します

- 次のテーマ
知って得する がん検診⑤
「乳がん」
- 問い合わせ 健康管理センター
☎ 52・2222



※子宮頸がんになる人は、女性76人に1人の確率と発表されています。発病しやすい年齢が妊娠、出産年齢と重なることから、発病しても妊娠、出産が可能な状態で完治することが望めます。あなたの命と生活、そして家族のため、積極的に子宮頸がん検診を受けましょう。

支えるチカラ

平成15年に発足したハンドリリーフ。これまで耳の不自由な人に話を文字にして伝える『要約筆記』ボランティアとして、聴覚障がい者や難聴者の社会参加をサポートしてきました。大学時代から筆記通訳や手話の活動に取り組んできたという田井さん(写真右)と菅原さん。「若い世代に引継ぎしてほしい」というメンバーの推薦を受けて、本年度から会長・副会長に就任しました。「身が引き締まる思い。責任感を持って取り組みたいです」と田井さんは力強く話します。

要約筆記を通して、「不自由を感じている人が当たり前の生活を送ってもらえるように、みんなでサポートしたいです」と話す田井さん。菅原さんも「話を聞いて書くという身近なこと、誰かの役に立てるのがうれしいです」とやりがいを口にします。「要約筆記の認知度が低い」ことが課題だと話す2人。それでも「活動を通して広めたい」と前を向きました。要約筆記を学んでみたい人、ボランティアに興味がある人は、高齢・障がい者元氣支援課 ☎ 64・6012まで。

要約筆記活動を通して広めたい



要約筆記サークル ハンドリリーフ

会長 **田井千夏**さん (31歳・福谷)
副会長 **菅原安希**さん (29歳・和久里)

アート&カルチャー

無名の刀剣も後世に残したい

子どものころのチャンバラ好きが高じて刀剣の美しさに魅せられた内田重男さん。日本美術刀剣保存協会若狭支部の支部長を務め、県の銃砲刀剣類登録審査委員にも就いています。会員は、若狭地域を中心に滋賀県も含め24人。「高齢化で会員も多いたきの半分に減少。若い人に魅力を伝え、興味を持ってほしい」と話します。活動は、年1回の刀剣展の開催と年5回の例会。「例会は、本部から講師を招き、講師持参の名刀で鑑定鑑賞会を開き、鑑定力を養っています」



日本美術刀剣保存協会若狭支部 支部長

内田重男さん

(71歳・羽賀)

20代のころ舞鶴市の刀剣店にたびたび通っていたら、そのうわさが先輩会員に伝わり、これが縁となって本会に入会できたそうです。「店ではガラス越しに見るだけでしたが、入会したことで刀を手にとり取って見ることができたのは大きな魅力でした」 「名刀も無名の刀も刀には変わりなく、作った刀工のことを思うと、大切に後世に残したい」と地元に残る刀剣の発掘と保存にも意欲的です。興味のある人は、支部長の内田さん ☎ 52・4585まで。